学 位 論 文 内 容 の 要 旨

奇形腫軟骨細胞の glial fibrillary acidic protein (GFAP) 他の中間径フィラメント蛋白、S-100蛋白に対する免疫反応性を検討した。未熟型奇形腫5例、成熟型奇形腫12例、奇形癌1例に含まれる95個の軟骨について、ホルマリン固定パラフィン包埋切片を用い、ABC法にて免疫組織化学染色を行った。奇形腫軟骨細胞はGFAP、ビメンチン、S-100蛋白に陽性を示した。GFAP陽性軟骨細胞は未熟軟骨において豊富であり、軟骨の成熟とともに減少し、かつ主に軟骨辺縁に分布した。成熟弹性軟骨では硝子軟骨よりもGFAP陽性細胞が多かった。GFAP陽性軟骨細胞は同時にビメンチン陽性と考えられた。GFAP陽性軟骨はしばしば中枢神経組織に接して存在していた。この結果は気道軟骨の免疫染色性と類似するもので、奇形腫軟骨の少なくとも一部は気道軟骨と同じ分化を示していると考えられた。さらに奇形腫が分化抗原の検索の上で有用な材料となりうることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は奇形腫軟骨細胞のglial fibrillary acidic protein 反応性を免疫組織学的に検索し、奇形腫軟骨の分化について新知見を得、さらに奇形腫が分化抗原の検索の上で有用な材料となりうることを示したもので価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。